

会議議事録

| | |
|------|--|
| 事業名 | 平成29年度「専修学校による地域産業中核の人材養成事業」 建設分野における産学協同教育体制のためのガイドライン作成事業 |
| 代表校 | 専門学校日本工科大学校 |
| 会議名 | デュアル教育推進会議(第1回) |
| 開催日時 | 平成29年8月30日(水) 17:00~19:00(2h) |
| 場 所 | 専門学校日本工科大学校 会議室 |
| 出席者 | <p>①委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井上雅二、内海秀明、柏本 保、片山俊行、嶋田 聡、高嶋靖生、高永 徹、高原一岐、田中政人、所 達弘、中農一也、難波利行、長谷川武義、堀内秀樹、増田和仁、水野和哉、毛利幸弘、森本徹之、山口政勝、吉川隆治、鷺尾和正、和田秀勝(計22名) <p>③事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古河邦彦(計1名) <p>(参加者合計23名)</p> |
| 議題等 | <p>会議の目的、次第、内容等を記載(必要に応じて別紙等で補足)</p> <p>【会議目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度事業内容と実施における委員への周知および評価までの確認を目的とした会議を開催した。 <p>【次第】</p> <p>日時:平成29年8月30日(水)17:00~19:00 会場:専門学校日本工科大学校 会議室</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.開 会 2.事業代表挨拶 3.委員紹介 4.議 事 <ol style="list-style-type: none"> (1)平成29年度事業概要について (2)平成29年度企業内実習実証計画について (3)平成29年度部会開催スケジュール (4)全国で展開するためのガイドライン実証・評価について 5.その他 6.閉 会 <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・事業計画書一部抜粋 |

| | |
|------------|--|
| <p>議題等</p> | <p>【内容】</p> <p>以下、次第に沿って会議が進められた。</p> <p>1. 開 会・・・</p> <p>事業責任者の校長片山から開催の言葉で第1回のデュアル教育推進会議が開催された。</p> <p>2. 事業代表挨拶・・・</p> <p>委員の皆様には、お忙しいお仕事の中にも関わらず、本会議ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>本年度は、皆様のご協力により2年目に入ります。建設分野として昨年は施工部会を中心にしてきましたが、今年は設計部会とマイスター部会を中心に行っていきます。2年目にあたり、本年度は各部会のものをしっかりと行います。</p> <p>本デュアル事業においては、6つの機関で事業を行っている。その中で一番進んでいる事業である。</p> <p>本年度も成果をしっかりと挙げていきたいと思っておりますので、引き続き、ご協力の程、よろしくお願いいたします。</p> <p>3. 委員紹介・・・</p> <p>事務局より、本推進会委員の紹介が行われた(配布資料:建設分野・デュアル教育推進会委員表参照)。</p> <p>4. 議 事・・・</p> <p>(1)平成29年度事業概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・趣旨目的については、昨年度と同じようである。配布資料を参照ください。企業、業界、専門学校、行政、学識経験者からなる本事業の中心となる委員会である。 職種に応じた部会(施工部会、設計部会、マイスター部会)を設置している。職種の応じた部会の協議結果を推進委員会へ報告とし、決定する。汎用性を進める。全国の建設分野の専門学校が採用できるよう中心の指示事項である。その一つに第三者委員会を設置する(8ページ参照)。業界関係者と学識経験者、行政の委員の方々に依頼中である。 ・ガイドライン作成方法について学生にとっての意義、企業にとっての意義、指摘事項指導体制、安全指導の徹底、守秘義務等の説明が行われた(5～6ページ参照)。 ・三菱総研からの枠組みの指示について説明が行われた(6ページ参照)。 ・28年度～30年度までの事業の流れの説明が行われた。本年度は企業実習が中心となる取組み(7ページ参照)。 <p>28年度の協議中から出た課題を踏まえ、29年度企業内実習を検証実施し、30年度に再確認した上でガイドラインに落とし込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の企業内実習の注意点等を委員の皆様から各部会(施工部会、マイスター部会、設計部会)から漏れている点があるかどうか説明以降意見を聞きたい。 |
|------------|--|

議題等

(2)平成29年度企業内実習実証計画について

企業内実習計画について以下の説明が行われた(9ページ参照)。

・本校の1、2年生が対象で、期間は2週間、参加人数は10名で行っている。

設計は10社程度に分散させている。施工は通年で実施、2年生(4～7月前期集1回実施)、報告と評価をしている。

後期授業の企業内実習においては、受け入れ検討の企業へアプローチ中である。

サマーインターンシップが8月に1週間(7日・8時間)実施し、評価・検証を進める。

造園は2～3月の1週間予定している。

マイスター(大工コース)は、大工コースと左官コースを2種類実施する。

大工コースは、授業の一環として通年実施するとともに、検討できる程度の企業数を依頼する。

左官コースは昨年の会議からの夏休み時期が好ましいという意見を参考に来週から学生を分散させて月～土曜日の1週間実施し、検証を進める。

木造に特化した「かみかわ木造インターンシップ」4日間合宿形式で実施する。との説明が行われた。

<企業内実習【設計】について>

・実施中である設計はどのような内容で企業内実習をしているのか教えてほしい。

→各事務所で内容が違うが、我が事務所においては、基本的には設計事務所の雰囲気を感じてもらうことを中心としている。

カリキュラムで管理しており、企業内実習の学生が自分でプランを考え作図したものを、CADを使ったものから模型作りまでを実施している。

また、事務所によってやり方が異なるが、事業主との打ち合わせの立ち合い、設計において現場の状況でウエイトの高い状況を経験させたりしているところもある。

→設計管理協会に企業内実習がどの程度内容で実施し、受け入れをしているかの状態を知ってもらうことが必要と思うので、これからの取組みにおいては我々も勉強となるので、アンケートまで実施してほしい。

→各事務所への発信が必要であり、どのような内容で行っているとか体験や課題も含めて参考となるものが共有できるようになれば、今後の受け入れへの理解度は高まると思われる。

→設計は受け入れをいただいて、終わった段階で各事務所にアンケートをお願いするという流れになる。

受け入れ側が何をするのかをある程度明確にできるようなアンケートが取れば良いと思うので、このご意見を参考にして全員(学生と企業)にアンケートを実施する。

学生から設計事務所に企業内実習に行った中で、学校で学んだCADの教育は役に立った。との声があった。

→学生を受け入れると、若い担当者への刺激となるとともに他人に教える経験ができ

| | |
|------------|--|
| <p>議題等</p> | <p>ることが望ましいという声が出てきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計の測量設計や土木設計はどうか。 <ul style="list-style-type: none"> →ほぼ、準備したカリキュラムは実施するようにしている。遠方となると受け入れは難しいと思われる。 →道路設計はどうか。 →道路改良設計はある。 →集中した受け入れが良いのか。 →1～2週間の集中型の受け入れが良い。 →測量の助手程度であれば、2週間の受け入れは可能と思われる。ノウハウをもっている方もいるので、受け入れができないこともないが、全体的に受け入れの裾野は広がってではなく、その分慣れていない。時々来ても現場が終了している場合があるため、受け入れる期間としては集中型が良い。 ・例えば、年明けの2～3月に土木設計、測量設計の受け入れはいかがか。姫路地方の設計事務所で春休みの紹介を委員の方にはお願いしたい。 <ul style="list-style-type: none"> →年度内の納品に仕事が集中するので難しいことと、C A D操作ができれば良いが触る程度になるので、意味が無い。 →内装のリフォームをしている設計事務所があるので、そこに体験させるのも良いと思う。 →設計の立場からすると、納期で対応ができないため3月は避けてほしい。受け入れをするのは夏季の期間を望む。 →本年度は難しいのか。 →12月の下旬からはどうか。 →難しい状況と思われるが、年明け早々であれば全体の動きが始まる前の時期であるため少しの余裕はあると思う。 →1週間ほどの期間で実施するという事で打ち合わせをして決定していく方向でお願いしたい。 <p><企業内実習【施工】について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、学生は県営住宅の企業内実習を体験しており、成績表には所長のコメント入りで進めている。毎回学生には報告書を書かせている。 <ul style="list-style-type: none"> →受け入れ企業数が少なく、アンケート数が集まらないため回答の工夫が必要と思われるが何か提案はあるのか。 →企業に振り返りのアンケートを実施する。項目については各部会において精査した上で実施する。 →アンケートの精査は、昨年の様式を利用して各部会に合わせたアンケートのベースを作成した後、各部会で協議して実施するのか。 →その方向である。評価の部分においては、3段階では難しいということで2段階評価というように改善した上で実施する。 |
|------------|--|

| | |
|------------|---|
| <p>議題等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・サマーインターンシップについては、1週間毎日実施した。建設業界のご協力により、色々な学校から30人で実施した。 →アンケートの内容の精査の必要がある。 ・造園の企業内実習が2月であるが、時期的な問題はないか。 →組合の中で時期に合わせて受け入れる先をお願いしている。もの作りを体験することに関しては年度末という時期的なものは関係無い。 ・施工は2パターンで実施する。工程毎に体験させることとして通年型で実施する。 →土木施工実習ができる場所はあるのか。 →場所が遠方ということと、和歌山県や六甲の山奥といったところになる。学生自身に毒蛇の対応などの安全性が確保できるかが難しい。 →土木は集中型で進める方が良いのか。 →工期にもよる。 →姫路市内に土木はあるのか。 →高砂等に場所はあるが、少し上層部分になると建築となる。 <p><企業内実習【マイスター】について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の一環で行うのか。 →昨年度の会議の中からの提案で、本年度はそれを実施する。来週から8時～17時で5日間実施し、単位認定として成績表と日報を付ける。 また、アンケートは、学生と企業の両方に実施するが、企業アンケートについて検討する必要がある。 →実習場と施工現場の違いに学生が感じてもらえればよいが、1週間となると期間が短いのでどうかと思う。体験で終わらないように長期が望ましい。 ・10月からの実習において、1年生の現在の技量では現場に入っても何も身に付かない可能性があるため2年生が望ましい。大工の1年生の企業内実習は難しい。 →2年生の後期で企業内実習を実施する方向で、受け入れ企業と打ち合わせをしていくこと。 →教える大工が少ないので、10名全員が来ても対応ができない。振り分けて大工1人あたり学生2人位までが望ましい。 →受け入れるには1現場2人が望ましい。 →受け入れ側も多くの企業を確保し、学生に色々な体験をさせる方向で検討してほしい。 →検討する。 →色々な企業に受け入れてほしいと思い、全国規模で展開している建設会社に受け入れをお願いしたが、労災関係が起きると問題があるとのことで断られた。地元の建設会社で回す方が良いと思う。 →受け入れるには労働者ではなく学生であるため、万が一の場合の保険関係でのトラブルが怖い。施工部会でもその点は議論した。 |
|------------|---|

| | |
|------------|---|
| <p>議題等</p> | <p>→やはり、地元の建設会社がお願いしやすい。</p> <p>→企業内実習の受け入れについては、地元の組合を通して受け入れをお願いしているが現場(工事)状況によって異なる。</p> <p>(3)平成29年度部会開催スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議開催スケジュールの確認、各部会会議は2回程度の開催、会議日程は未定である。各部会の協議内容を第2回推進委員会で全体の意見としてまとめる。 <p>各部会の会議の日程は未定だが、実習を実際に視察した上で、実習のあり方について意見を聞きたい。色々な実際に即した意見をもらおう。(10ページ参照)</p> <p>施工部会は土木の実習のあり方とアンケートについて検討する。</p> <p>設計部会は2～3回の予定である。安全守秘義務について再度部会として協議する。</p> <p>アンケート内容についても、土木における設計について議論を重ねていきたい。</p> <p>マイスターは左官と大工の視察をして意見をもらうようにする。修了した後に、推進委員会からの意見とその後第三者委員会の評価を評価に用いて観点を検討していく。</p> <p>→会議日程はこの会議の場で決定するのか。</p> <p>→実習に合わせて会議を開催する方向であるため、事務局で日程調整を行う。</p> <p>(4)全国で展開するためのガイドライン実証・評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国へ普及するための展開について文科省から求められているので、この点について検討したい。 <p>→昨年度の各部会の会議内容をまとめ反映した11ページから成果についてガイドラインを書いてあるが、その他にご意見がございましたらお願いしたい。</p> <p>→企業側と学生側の実習の意義、指導体制、有償・無償、守秘義務等についてまとめているが、全国展開に普及させるために必要な内容、課題等があればご意見をお願いしたい。</p> <p>→全国展開をするためには、各協会への働きかけをして一緒に行う。学校単体では難しい。地域毎に事情が違うところを考える必要がある。建築・建設において、地域毎のニーズに合わせたものが作成する。一律同じものを展開することはできないと思うが、共通点を探し出して作るのが良いと思う。その時代に合わせたオーダーメイド型の内容が必要。</p> <p>→汎用性を持たせるには、この事業のガイドラインのベースを作ることと知らしめる(告知する)ことが必要である。</p> <p>→専門学校では、専土建とHPを作ることを考えている。HPでは動画で説明できるように考えている。</p> <p>→HPは有効と考える。</p> <p>→業界に広める方向はどうか。</p> <p>→我々委員から告知して、建築事務所協会を通して全国へ広める活動はしていきたい。</p> |
|------------|---|

議題等

- 全国大会的なところへ働きかけることができれば良い。
- 旗振りだけで、職人育成への協力が得られない。ものづくりの国であるのであれば、その方向を示してほしい。取組みが末端まで届かない。1～2年では職人は育たないのでその点を考慮して導き出してほしい。
- このご意見に一步でも二歩でも近づけられるようにしたい。
- 兵庫県では県と建設業の団体と学校関係と連携して協議会を作っている。代表的なものとしては建設業協会の協力を仰ぎ、工業高校に建設業の魅力を伝えている。少しでも多くの方に技術の継承をしてもらえるように昨年は9校500人、本年は11校600人へ働き掛けている。引き続き同じ視点で取組んでいきたい。
- 実践的な職業教育については、専門学校、団体、我々行政と連携して行ってきたい。

【会議風景】



本日は、お忙しい中長時間におよぶ会議にご出席いただきましてありがとうございます。有意義な内容となるよう成果を出していきます。との言葉で会議散会となった。

会議議事録

| | |
|------|---|
| 事業名 | 平成29年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」 建設分野における産学協同教育体制のためのガイドライン作成事業 |
| 代表校 | 専門学校日本工科大学校 |
| 会議名 | デュアル教育推進会議(第2回) |
| 開催日時 | 平成30年1月15日(月) 17:00～19:00(2h) |
| 場 所 | 専門学校日本工科大学校 会議室 |
| 出席者 | <p>①委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井上雅仁、宇高雄志、内海秀明、柏本 保、片山俊行、古賀俊光、高嶋靖生、高原一岐、田中政人、中農一也、難波利行、長谷川武義、濱本一志、増田和仁、毛利幸弘、森本徹之、山口政勝、吉川隆治(計18名) <p>②事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古河邦彦(計1名) <p>(参加者合計19名)</p> |
| 議題等 | <p>会議の目的、次第、内容等を記載(必要に応じて別紙等で補足)</p> <p>【会議目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度事業成果物に掲載するQ & Aに対する意見交換と平成30年度に向けた計画についての報告を目的とした会議を開催した。 <p>【次第】</p> <p>日時:平成30年1月15日(月)17:00～19:00 会場:専門学校日本工科大学校 会議室</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.開 会 2.事業代表挨拶 3.議 事 <ol style="list-style-type: none"> (1)平成29年度成果物について <ol style="list-style-type: none"> ①目次 ②Q & A (2)平成30年度実施計画について 4.その他 5.閉 会 <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・成果物目次 ・成果物掲載Q & A |

| | |
|------------|--|
| <p>議題等</p> | <p>・事業の実施体制イメージ図</p> <p>【内容】</p> <p>以下、次第に沿って会議が進められた。</p> <p>1. 開 会・・・</p> <p>事業責任者の校長片山から開催の言葉で第2回のデュアル教育推進会議が開催された。</p> <p>2. 事業代表挨拶・・・</p> <p>委員の皆様には、お忙しい中会議出席いただきましてありがとうございます。今日は、成果物について議論をしていきたいと思えます。よろしく願いいたします。</p> <p>3. 議 事・・・</p> <p>(1)平成29年度成果物について</p> <p>①目次</p> <p>第1章～5章まであり、基本的には、文部科学省と三菱総研からの提示で作成しているとして、目次について読み上げられた(配布資料:成果物目次参照)。</p> <p>②Q & A</p> <p>配布物:成果物掲載Q & Aが読み上げられ、更なるご意見を伺いたいとのことで、以下の意見交換が行われた。</p> <p>施工部会、設計部会、マイスター部会でご意見をベースにQ & Aを作成している。</p> <p>→5ページのQ3 A3の部分で、報酬の有無にかかわらず、労働者災害保険の定義においては、作業員名の明記、簿賃金台帳への記載、100日以上勤務が無いと当て嵌まらない。学生は労働者とならないため、本来の労災保険には当て嵌まらない。学生の保険があるという部分を明記した方が良い。</p> <p>→3カ月や半年という期間の長期企業内実習をさせたいということから明記している。</p> <p>→学校が企業としてなっているかどうかになる。学校関係の保険と労災保険とは違う。事業に関して労災保険に入るかどうかになる。→企業内実習という学び場のところで、企業が学生を労働者と認めて保険に入るかどうか。</p> <p>→授業で労災に保険に入るのは検討する必要がある。インターンシップ保険として明記する方が良いと思う。</p> <p>→表現について検討する方が良い。基本的には、労働時間6時間以上/日で100日以上が労災保険の対象となる。</p> <p>→文科省ではアルバイトのように、ある程度時間を毎日行うことを求めている。</p> <p>→基本的には無報酬、報酬有では授業で行わない。企業内実習は無報酬が前提である。</p> <p>→労災は各社入っているので特に問題はない。学生が来ても自社が入っている労災</p> |
|------------|--|

議題等

で対応できる。

→ガイドラインということで、ここで協議をしたことは決定なのか。

→長期の実習とアルバイトは違う。

→この文章がガイドラインとなると判断が難しく、混乱すると思われる。

→2 ページ目のデュアル教育とコープ教育のQ 2 A 2 の原則としてあるがそれはどのような意味なのか。

→コープ教育は1年の実習など期間が長いので、報酬が支払われるという意味である。コープ教育ではそのまま学生が就職する事例がほとんどである。

→基本的には、学習の場であって無報酬が当然と思われる。

→報酬有と報酬無の併記している。

→「基本的」を削除し、2つ文章を作成すれば流れる表現となると思われる。

→修正をする。

・中長期という期間は、中期と長期の期間の日数を示すのが良いと思う。

・このような実習を学生にさせるには、どのような体験をさせるのかの全体像があって、その中で何を勉強させることが、報酬よりも重要である。

7 ページQ 3 A 3にあるように体験をしっかりと位置づけさせることが必要で、そのボリューム的には実習前と実習中、実習後は1:1:1である。

企業内実習に行き学生が就業意欲を失わないように意見交換をしていかなければならない。

例えば、4 ページQ 1 A 1の中の②③においては、学生に確認させる振り返りの期間が必要である。学生の経験を表現化させることが大事である。

→ガイドライン〇〇ページ参照とあるが詳しいものはあるのか。

→これから具体的なものを作成していく。

・昨年度の日報等の様式を参照しながら説明する。

→事実の記録は必要であるが、それよりもさらに一步踏み込んで、実際に働いている方から何を学んだのかという内面の部分がある程度の時間をおいて書かせることが必要である。

→毎回、全てを振り返って自分が何を感じ、取り入れたことを学生には書かせている。

→企業内実習に行った日の日報は学生に書かせている。その後、長期休暇期間に入るため、そこで、報告という形で学生にPPTを作成させて、振り返りの発表をさせている。

→学生からの質疑に応じることをしている。

→この部分は、実際には弱い部分でもあるため、すでに来年度の課題に挙げている。

・6 ページの②の守秘義務指導があるが、指導することは必要なのか。

→例えば、設計の場合、図面作成途中の段階で、まだ設計途中のものが漏れないように気をつける必要がある。クライアントに提出前の段階の情報が漏れるのはよくない。

| | |
|------------|--|
| <p>議題等</p> | <p>→学生が面白可笑しく動画や撮影を勝手にしないことを避けるためのものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Q & A で重要なポイントを抑えるようにしているが、他にご意見がございましたか。 →特になし。 →来年度さらに精査を重ねつつ、他の分野との整合性も含め進めて行く。 <p>(2)平成30年度実施計画について</p> <p>実施体制イメージ図をもとに説明が行われ、意見交換が行われた(配布資料:事業の実施体制イメージ図参照)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学びの履歴に関するフォームを職種毎に作成、受入企業の参考となる実習時の指導ポイントを職種毎に作成、実習による教科学修の「見える化」をする自己評価シートの開発を来年度実施する。他の学校でも活用できる汎用性を踏まえたものを開発していく。 →企業内実習を行ったアンケート結果からこのような課題が見出され、全国的な専門学校で活用できるようにする。 →専門学校と企業との繋がりにおいては、就職の関係の中で1～2日の企業内実習はあるが、長期になると難しい。また、個々の実習期間がバラバラとなった場合、クラス運営として学校に残った学生の対応はどのようなのが難しい。 →企業内実習の人数を調整してローテーションをとり、学生全員が行くようにバランスの設定している。 →平日は授業後に企業内実習行かせており、授業として取り入れ切れていない。授業として採用していかなければ企業内実習を行うことは難しい。 →単位認定できなければ難しい。 • 受入企業は、どこでも受け入れられるということでもない。学生をどのように受入するのが難しい。 →企業としては、危険を伴うこともあるので不安である。 →今の時代は受け入れたいという企業は増加していると思う。 • 本年度マイスターではじめて企業内実習をしたが、学生にとっては評判が良かった。 →左官に関しては、1週間連続して数日空けて1週間連続をすれば良いと思われる。 →全国版的に作り上げるのであれば、学校側が斡旋できるように、ある程度の企業数が必要である。学生に実習先企業を選ぶことができるようにすることが必要である。 →学生を受入れてどうであったか。 →マイスターは、期間が長いと何を教育すれば良いのか段々分からなくなる。実習のみであるのか、教育的なものであるのか、社会の勉強なのか、社会教育という総合的なものなのか、はじめはプロの技術を教えるということになるが、期間が長いと挨拶・礼儀といったものを教えていかなければならない。学校側からある程度カリキュラムを提示してもらいたい。 |
|------------|--|

議題等

- 学校が受入企業に対して方向性を提示して調整することが教員に求められる。
- 時期で実習の内容が変わるので、時期を決定することが必要と思われる。受入側の体制について考えていかなければならない。選択肢がある機会を作ることが必要である。
- 1年生の前期は難しいと思うので、1年生の後半からが良い。1週間に2～3日程度の設定ができれば良いと思う。マイスターは一人親方が多いため、難しい現状でもあるが、受入企業を探す協力はしていく。
- 卒業生から資格の大切さを参加学生に話したところ、資格を取る大切さの意識が変わった。
- ・今年の8月に全国専門学校土木教育研究会という北海道から九州までの全国の土木系の専門学校の総会が当校で開かれる。そこで本事業の研究発表を行い、普及を推進していく予定である。
- ・3ページのQ2A2の①②のアンケート結果は、企業への負担はあるがこのような考えの中で実施していることを改めて知らされた。

4.その他

会議は、第三者評価委員会会議をもって、本年度の会議は全て終了となります。第三者評価委員は5名選出して行います。

また、来年度については、今年度同様に計画書を提出し、委託を受けた後、進めていきます。

【会議風景】



本日は、お忙しい中長時間におよぶ会議にご出席いただきましてありがとうございます。との言葉で会議散会となった。

会議議事録

| | |
|-----|--|
| 事業名 | 平成29年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」 建設分野における産学協同教育体制のためのガイドライン作成事業 |
| 代表校 | 専門学校日本工科大学校 |

| | |
|------|---|
| 会議名 | 第2回建設分野・デュアル教育推進会議・欠席者会議 |
| 開催日時 | 平成30年1月18日(木) 13:00~15:30 |
| 場 所 | 近畿大学 本部キャンパス (大阪府東大阪市小若江3-4-1) |
| 出席者 | 安孫子 勇一 (近畿大学 教授) 片山 俊行 (日本工科大学校) |
| 議題等 | <p>会議の目的、次第、内容等を記載</p> <p>【会議目的】 デュアル教育の基本的な部分について、考え方の確立が必要であるため、第2回デュアル教育推進委員会を欠席した委員の中で、特に意見を聞く必要がある学識経験者委員を対象に欠席者会議を開催した。</p> <p>【次第】 日時:平成30年1月18日(木) 13:00~15:30 会場:近畿大学 本部キャンパス</p> <p>1. 開 会 1 開会 2 議事 ①建設分野・デュアル教育Q & A ②平成30年度事業計画 ③第三者評価委員会の評価シート 3 閉会</p> <p>〈配布資料〉 ・ガイドライン「目次」 ・建設分野・デュアル教育Q & A ・事業の実施体制イメージ図 ・第三者評価シート</p> <p>【内容】 以下、次第に沿って会議が進められた。</p> <p>1 開会</p> |

| | |
|------------|--|
| <p>議題等</p> | <p>デュアル教育の基本的な部分について、考え方の確立が必要なため、学識経験者の方にご意見をいただくため、本会議を開催した。</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 建設分野・デュアル教育Q & A</p> <p>資料により、建設分野・デュアル教育Q & Aを説明する。</p> <p>①デュアル教育とインターンシップの違いについて</p> <p>→インターンシップはデュアル教育よりも、もっと広い概念である。インターンシップの中にデュアルやコーオペ教育があるという考え方である。</p> <p>→日本では、職場体験・就業体験を指す言葉として使われている。</p> <p>②コーオペ教育について</p> <p>→アメリカやカナダが開発した教育制度で国等がコードを定め、そのコードに準じて教育を実施する方法である。数年前のインターンシップ学会の会報に論文が掲載されているので、参考にするとよい。</p> <p>③「講義と実務を結び付けること」について</p> <p>→事前に見ておくポイントを指導しておくことを記載しておくこと。</p> <p>④学校・学生のメリットについて</p> <p>→企業内実習については、1997年の3省合意があるので、メリットの順序付けに配慮すること。</p> <p>⑤企業の考え方について</p> <p>→最近、経済産業省が「地域」というキーワードで、地域のよさに気づく、地元の企業に気づく、ということを強調しているので、そのような動きに合致した記述である。</p> <p>⑥受入企業との調整について</p> <p>→信頼関係を構築することを明記しておくこと。</p> <p>⑦実施裕の期間</p> <p>→長期実習の場合は、モチベーションの低下に留意すること。</p> <p>→実習で得たことの内面化とは、何に気づき、それをどう生かそうとするか、ということ。</p> <p>⑧事前指導について</p> <p>→企業がどういう志、考え方で受け入れているかを指導する部分を記載すること。</p> <p>→実習中に見る視点を指導することについて記載すること。</p> <p>⑨事後指導について</p> <p>→振り返ること、振り返りを共有し深化することについての指導の部分について記載すること。</p> <p>→何に気づいて、それをどう生かしていこうするのかが、振り返りのポイントである。</p> <p>(2) 平成30年度の事業実施体制イメージ</p> |
|------------|--|

| | |
|-----|---|
| 議題等 | <p>資料によ、平成30年度実施体制を説明する。</p> <p>→指導のポイントの作成については、成功事例集のようなものとなる。</p> <p>→また、地域としてのノウハウを共有する取組でもある。</p> <p>(3) 第三者評価シート</p> <p>資料により、第三者評価シートを説明する。</p> <p>→必要な情報が取り出せるような工夫をするのはいいことである。</p> <p>→失敗学というものを東京大学の旗村氏が対案している。それは、成功と失敗との間には幅があり、その幅の中でうまくやっていく専用マニュアルが出来てしまっている。</p> <p>→そのマニュアル通りやれば、適当に仕事がこなせるため、考えることをしなくなってしまう。そこが大きな問題である。</p> <p>→ガイドラインにも、失敗例を入れ、第三者評価シートの観点として失敗例を記載しているかどうかを示せばどうか。</p> |
|-----|---|